

阪神新年例会

昭和五十一年一月二十二日(木)
於 大阪東洋ホテル

年頭の例会は久しぶり振る大阪東洋ホテルの大広間に掲げることになった。この日は辰巳会長長寿番附の旗頭である高畑、永井両翁を迎えての卒寿記念祝賀と云う趣向のもとに木畑幹事が司会を進められてゆく。会に先きだち若き日の思出ソング「年の始」を小倉幹事がスクラフを振って一同と朗かに合唱した。



大幡幹事長の開会の辞は重厚な

る姿勢の下に心温まる両翁への祝辞を述べられ、つづいて本会本年度の抱負、特に全国大会の予告発表等あり全員拍手の内に降壇された。プログラムの順位に従い高畑会長の御挨拶、本日の企画に対する御鄭重なる謝辞、並に目下の経済情勢行き悩みに対して諸君の豊かなる経験を活かして打破して貫い度いと激励の言葉を発せられた。このあと小倉幹事から会務報告の詳細を披露することとなる。



新年会のアトラクションとして柳田幹事の幹旋に依り堺市から迎えた生田流若葉会、南明子、山本久美子両嬢に依って箏曲の演奏が始められた。曲目「さらし風」「銀色燭草」「浜辺の朝」「若草」宮城道雄師の名曲ばかり、万場は澄み

に澄み耳朶を洗わうばかりであった。正午を少し過ぎたところで宴が始まる。卓の料理が揃ったところで永井さんが祝賀乾盃の音頭を取って下さった。愈々宴も酣、皿、ナイフ、フォークの席も動き出し、ビールの栓も抜かれては一層談笑の渦を巻き起した。胃袋の調整も出来たものか例に依り漫芸の飛入りが始まらんとしている。声帯模写の上手な宮永さん、名人小唄の佐野さん下元さん、若き日の蓄積を次々と発散、さすがだ何時もながら頭がさがる。次に楓夫人が座席をはずして舞台の方へ現われ謡曲を三四分位ですまされて姿を消されたが、八十歳とは見えぬ若さそのもの元氣なお貌がほほえましい。つづいて今まで本会での隠し芸の出し惜しみをしていた三木、武井両君、木幡幹事は見逃すことなく指名、得意の咽喉土佐のヨサコイが場内に流れて来た。斯くして愉しく過す内に時速は容赦なく閉会の刻を待たない。四時解散ともなると各々再会の日を約し合い袂を分ち名残り惜しくも家路を急ぐこととなった。省みてこの新年会の初姿の立派さは到底云い現せぬ盛会であったことが嬉しく思われる。

会務報告

幹事 小倉 五郎

今年の寒さは厳冬と申して宜しいのやら、又暖冬と申して宜しいのやら、室内で朝三度位の日が二三日続き外出の時にはオーバの杓を立てて、歩くにも思わず小走りになるかと思えば、十度以上ともなり三月下旬の温気のためオーバーが重荷となって片手に掛ける程で、毎朝寒暖計と睨みっこしてその日の下着を調節する等、こんな関係かどうか、近頃大変悪質な風邪が流行しているようですが皆様方には大変お元氣に今日も大体従来通りに、大勢ここにお集り頂きますまで洵に喜ばしく祝着に存する次第であります。

さて会務報告ではありますが既に先着御覧頂いた事と存じます「たつみ」誌二十四号「新年号」に記事として殆んど掲載されていますので先刻御承知の事と存じますが、その中から一、二ここで御報告申し上げたいと存じます。それは今年米寿をお迎えなられた方が中井義雄さんを始めとして三名、喜寿をお迎えなられた方が中村元義さんを始めとして三十三名おられました、恒例によりまして夫々銀杯又は大杯をお贈り致し

ました。個々のお名前は「たつみ」新年号に載せてありますので、時間の都合もあり省略させて頂きま

す。以上に対しまして、中井さん並びに中村さんからは御内祝として多額の金一封を会の方へ御寄贈頂いておりますので、皆さんに御報告申し上げますと共に茲にお二方に対し厚くお礼申し上げます。有難度う御座居ました。尚ここに垂幕が出ております様に高畑さん永井さんには今年お元氣に卒寿をお迎えになりました、これ又洵にお芽出たき限りと存じます。そして卒寿の方々を始めとし米寿の方々又喜寿の方々には、この上とも御健康に御留意頂きます。社会国家の為今後共益々御活躍頂きますと共に、我々後進者の為に公私共に何かと御指導頂きます様切にお願いして止まない次第で御座居ます。次に本年度の全国大会について既に決定されております事柄だけ一寸御報告申し上げます。日取は 来る五月十四日(金) 会場は 元万博の日本庭園内迎賓館 寶館 主題と致しましては来年が御主人鈴木岩治郎さんの三十三回忌に

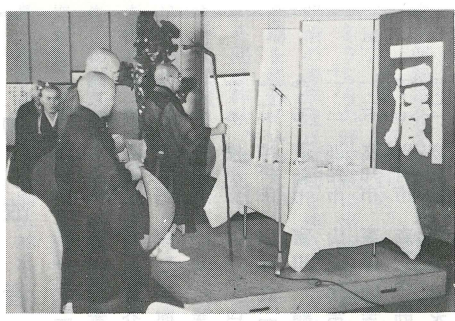
全国大会記

★於 万国博会場迎賓館

五月十四日(金)辰巳会全国大会が、鈴木岩治郎氏三十三回忌、



柳田富士松氏五十回忌、亦辰巳会員物故者の法要と共にしめやかに催された。会場は思出深い万国博跡の万国博記念館迎賓館で。参加者は北海道から南は九州まで百数十名に達した。天候も理想の早月日和に恵まれ、緑の美しさに目も泌み入るばかりだった。開会の十一時前頃には庭園を眼下にした広いラウンジも狭い程に会員が統々集合されアチラ、コチラで元氣に久し振りの再会を互に喜び合ひ年のことも忘れての歓声が尽きる事がなかった。間も無く大会開催の時間が来た。早速一同は二階のレセプションルームに移り、嵯峨崎幹事の司会にて会は運



ばれてゆく。大幡幹事長から丁寧なる開会の挨拶があり、直に法要の式に入った。会場正面のバックには思い出深い暖簾が掛り、之を背に鈴木岩治郎氏、柳田富士松氏、並に辰巳会員物故者の卒塔婆が三基、厳かに安置され、其の前で祥竜寺、菅宗信禪師以下祥門の説経が流れ厳肅に法要の儀が行われた。御遺族の方々を始め支部代表の献花が次々行われた。高畑、柳田両氏からは丁寧なる謝辞を戴いた。斯くして念願の行事も恙無く終り、小倉幹事の会務報告に近況が報ぜられ、宴会に移った。約二十の丸テーブルを囲み、永井幸太郎氏の御発声の下、乾杯。ダイナーにと移った。時の過ぎるに従いアチコチから、高低の歓声が盛り上がり、形容の出来ぬ楽しさが膚に浸みついた。一ツ釜の飯の親しみでも云おうか?先輩諸兄の色々昔の思い出話を楽しみながら、亦老体をいとわず高畑、柳田両氏も御元氣にコップ片手にテーブル毎に丁寧な御挨拶廻りを致された。斯くして時の過ぐるも忘れて語り合う裡に名残り惜しくも此の大会も終りに近くなったので、中村幹事がこの日の感想を交えた挨拶で、一応閉会と成った。

阪神新年例会出席者名簿

昭和五十一年一月二十二日 於 大阪 東洋ホテル

足立 宇三郎	北 保	曾根 好雄
天羽 正人	金 月	杉山 平好
千頭 元一	松田 大介	隅田 まさ
土居 樟巳	松岡 俊一	田中 真一
江口 章	松下 重男	高橋 俊彦
藤内 金次	三木 秀介	高畑 薫幸
藤原 勢次	三浦 平治	高畑 誠一
藤田 健作	宮永 博	竹下 千代子
深川 清	森田 明	武井 一郎
福沢 有	永井 幸太郎	富永 初造
伏見 俊助	中村 元義	宇津木 亥一
後藤 雄太郎	西村 鉄次郎	渡利 秋子
源島 ふさ	野原 貫司	矢倉 林三
花井 嘉夫	野島 一郎	山崎 敏明
橋本 知一郎	小川 多喜子	柳田 義一
畑本 忠吉	小倉 五郎	安並 正道
広戸 忠吉	小野 三郎	米田 幸吉
菜崎 実	越智 通允	斉藤 庸吉
今村 冬二郎	大幡 久一	
今村 頼吉	奥田 孝三	
石本 喜久次	奥村 孝三	
岩橋 貞良	奥村 孝三	
岩永 英三	奥村 孝三	
岩瀬 聖一	奥村 孝三	
楓 秀猪	奥村 孝三	
楓 喜和恵	奥村 孝三	
金子 甚蔵	奥村 孝三	
川口 一郎	奥村 孝三	
木畑 龍治郎	奥村 孝三	
木畑 龍治郎	奥村 孝三	
計 八十八名		

